

(別紙様式 4)

平成29年3月31日現在

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名		設置認可年月日	校 長 名		所 在 地	
トライデントスポーツ医療看護専門学校		平成11年3月31日	木村 俊介		〒464-8611 愛知県名古屋市千種区今池1-5-31 (電話) 052-731-1608	
設 置 者 名		設立認可年月日	代 表 者 名		所 在 地	
学校法人 河合塾学園		昭和53年8月1日	理事長 河合 英樹		〒461-8611 愛知県名古屋市千種区今池1-5-31 (電話) 052-735-1600	
目 的	科学的根拠に基づいたトレーニング指導、外傷予防や救急処置などの高い技術と深い知識で競技生活をサポートするトレーナー、運動療法論、メディカルチェックなど知識や技術を身につけ、安全な運動指導ができるトレーナーの養成を行う。また「スキル」「マインド」「マネジメント」の3つ兼ね備えた実践力のあるスポーツ指導者の育成をめざす					
分野	課程名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
文化教養	文化教養 専門課程	プロフェッショナル トレーナー学科	3年 (昼間)	2550単位時間 (又は単位)	平成22年文部科学 大臣告示第153号	
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		3,420単位時間 (又は単位)	390単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数
60人		66人		2人	15人	17人
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ■成績評価の基準・方法について 筆記テスト・実技テスト等による総合判定。	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月3日～9月11日 ■冬 季：12月24日～1月10日 ■学 年 末：3月31日			卒業・進級条件	各年次において、進級・卒業必要単位数を取得し、進級・卒業判定会議で承認されること。学費及び諸経費を期限までに完納していること。	
生徒指導	■クラス担任制 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ■長期欠席者への指導等の対応 個別、あるいは保護者同席での面談			課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

主な就職先	<p>■主な就職先、業界 実業団スポーツチーム、トレーナー 派遣会社、フィットネスクラブ等</p> <p>■就職率 100%</p> <p>■卒業者の占める就職者の割合 88.53% (平成26年度卒業者に関する平成27年3月 時点の情報)</p>	主な資格・検定	<p>(公財) 日本体育協会 アスレティックトレーナー</p> <p>(公財) 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者、 JATI-ATI</p>
中途退学の現状	<p>■中途退学者 4 ■中退率 5.3%</p> <p>平成27年4月1日在学者 75名 (平成27年4月入学者を含む) 平成28年3月31日在学者 71名 (平成28年3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更、学費支払い困難</p> <p>■中退防止のための取組 個別面談、保護者会の実施。学費支援制度の導入。</p>		
ホームページ	URL: http://sports.trident.ac.jp/		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

現在のスポーツ現場における状況を把握し、最新の知識や技術を吸収し教育内容に反映していくことは、もちろん、学生への教授方法や仕事の進め方なども熟知したうえで実施するため、本校で開催する教育課程編成委員会においては、関連企業、業界団体からの要請、提言を聴取し、該当学科の教育運営に資することを目的としている。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
木村 俊介	トライデントスポーツ医療看護専門学校 学校長
美甘 祐司	株式会社みかも みかも鍼灸接骨院 代表取締役
菅野 昌明	株式会社エム・スポーツコンサルティング 代表取締役社長 トライデントスポーツ医療看護専門学校 非常勤講師
岩田 真二	トライデントスポーツ医療看護専門学校 統括チーフ
中原 千賀子	トライデントスポーツ医療看護専門学校 チーフ
山田 敏夫	トライデントスポーツ医療看護専門学校 スポーツ学科 学科長
原川 昌樹	トライデントスポーツ医療看護専門学校 スポーツ学科

(開催日時)

第1回 平成28年10月7日 19:30~20:30

第2回 平成29年2月23日 19:00~21:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業との連携による演習等の科目においては、トレーニング計画立案→実践→評価→改善 を授業展開の中に取り入れ、業界の現状を踏まえた最新の知識を習得させるとともに、「考える力」など社会人基礎力を涵養することも目的に設定する。実技についてはスポーツクラブなどで実際に行われている最新の技術を体験させ、自身の実践や他者への指導ができるように企業の講師にアドバイスいただき、本校専任講師または企業の教師が実施する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
トレーニング論・実習 開講科目名 「トレーニング論」 「トレーニング実習」	トレーニングプログラムを作成するために必要となる科学的トレーニングについての知識を学び、種目や対象者の特性等に応じた指導方法、トレーニングプログラムの作成方法・実践方法を習得する。	(株)エム・スポーツコンサルティング

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

専門学校教員として、自己の専門分野における最先端の知識・技術の習得のために、業務上一定の時間を費やすことを学校として求めている。研修等の諸規定に定められている通り、年度の当初に学科チーフと学科長、各教員で実施する研修についての年間計画を立案し1名あたり年に2~3回の研修を義務づけている。教員はそれらの研修を通じて各々が専門分野の知識向上に務めている。また、専門知識のみではなく、授業に関わる技術など教育力向上のための機会についても法人全体の課題として取り組んでいる。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 28 年 4 月 1 日現在

名 前	所 属
徳永 勝哉	有限会社 ガイアそうこ
小林 忠雄	公益社団法人 愛知県柔道整復師会こばやし接骨院
岡田 壮市	医療法人珪山会 鶴飼病院
東 裕子	医療法人 としわ会
志知 紀代乃	中日新聞社健康保険組合 中日病院
谷澤 文彦	愛知県立明和高等学校
上田 章人	株式会社ストロウハット (ラ・グラッセ山王橋)

(学校関係者評価結果の公表方法)

http://sports.trident.ac.jp/college_guide/documents/index.html

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: URL: <http://sports.trident.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 プロフェッショナルトレーナー学科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			身体の仕組み	人体の構造、機能。機能を支えている物質について学習する。特に骨格系、筋系、神経系と上肢および下肢の構造を理解する。	1通	60	4	○		
○			食育学	健康の保持・増進を支える栄養摂取について基礎的な知識の習得をめざす。また、競技者における栄養指導の重要性を理解し、スポーツにおける栄養摂取の役割及び関係する栄養素などについての知識を身につける。	1後	30	2	○		
○			スポーツ外傷学	スポーツ指導者が理解すべきスポーツ外傷・傷害の基礎知識について、上肢、下肢、体幹の代表的な外傷・障害の病態、発生機転、評価方法などを学習する。	1後	30	2	○		
○			スポーツ指導論	スポーツを指導するうえで必要な知識を身につける。また、様々な状況に応じた多面的で柔軟な指導方法を習得する。	1通	60	4	○		
○			スポーツ社会学	スポーツと社会との関わりにおいて、スポーツ理念、スポーツ文化について理解する。スポーツ基本法やスポーツ立国戦略等の国の政策をもとにしたスポーツに関する施策について学習する。	1通	60	4	○		
○			スポーツ心理学	スポーツ心理学を正しく理解し、実務現場における問題解決や、競技力、作業の向上に貢献できる能力を身につける。	1前	30	2	○		

○		スポーツ内科学	運動指導を安全に行うために必要な身体に関する知識を身につける。スポーツ活動中に起こりうる内科的疾患およびスポーツパフォーマンスに影響を及ぼす内科的疾患についての基礎知識を身につける。	1 前	30	2	○		
○		スポーツマッサージ・ストレッチ実習	疲労回復や外傷・傷害の予防を目的としたスポーツマッサージやストレッチ方法を学習し、トレーナーが現場で行うウォーミングアップやクールダウンをより効果的に行える能力を養う。	1 前	30	2	△	○	
○		トレーニング論・実習	トレーニングプログラムを作成するために必要となる科学的トレーニングについての知識を学び、種目や対象者の特性等に応じた指導方法を考え、フリーウェイトを中心としたトレーニングの実践方法を習得する。	1 通	90	3	○	△	
○		水泳実技	4泳法を理論的に学び、身体の一つ一つの動作がどう関わっているのか理解し、実践する。	1 前	30	2	△	○	
○		エアロビックダンス実技	ダンス的な要素を取り入れた有酸素運動であるエアロビックダンスを実際に受講し、基本ステップ・ウォームアップ・エアロパート・コンディショニング・クールダウンなど一連のエクササイズプログラムを理解し、指導のための基礎知識を習得する。	1 後	30	2	△	○	
○		スポーツ生理学	身体を動かす運動器について、基礎的な知識を習得し、運動することによって起こる身体諸器官・諸機能の適応について理解を深める。	1 前	60	2	○		
○		テーピング実習	テーピングの目的や効果、限界などを理解し、足関節捻挫などスポーツ指導者が遭遇しやすい外傷・障害に対する基本的なテーピング技術を習得する。	1 後	30	2	△	○	
○		トレーナー入門	トレーナーの業務内容、心構えなどトレーナーとして就業するにあたって必要な情報や知識を身につける。トレーナーに要求される専門性と総合性について学ぶ。	1 通	60	4	○		

○			現場実習・救急法実習	トレーナーの業務内容、心がまえをトレーナーの仕事を見学し学ぶ。また、事故や災害などの緊急時に必要な手当てできるように応急処置方法、AED の知識と技術を学ぶ。	1通	60	4	○	△	
○			救急対応論・実習	スポーツ現場で発生する外傷や内科的疾患に対する救急処置の方法を学習する。	2前	30	2	○	△	
○			食育学	健康の保持・増進を支える栄養摂取について基礎的な知識の習得をめざす。また、競技者における栄養指導の重要性を理解し、スポーツにおける栄養摂取の役割及び関係する栄養素などについての知識を身につける。	2前	30	2	○		
○			動作学	スポーツ動作の観察や身体の機能評価に必要な知識について、特に運動器の機能を中心に学習し、スポーツ動作を構築する各要素について深く理解する。	2通	60	4	○		
	○		スポーツ外傷学	トレーナーが理解しておくべきスポーツ外傷・障害の発生メカニズムを追求して、発生メカニズムに基づいた治療方法やアスレティックリハビリテーション方法を理解する。	2通	60	4	○		
	○		トレーニング科学	トレーニングを指導するために必要となる基礎知識を理解し、さらに運動生理学やバイオメカニクスなど関連分野の内容を踏まえ、実際の指導に応用できる能力を養う。	2後	30	2	○		
	○		専門理論・実技	スポーツ選手から中高年層など広範囲にわたる対象者に対し、個人の特性や目的、ライフスタイルに合わせたプログラム作成やマンツーマン指導のための学習をする。	3通	240	16	○		△
	○		アスレティックトレーナー概論	選手を中心とするサポートスタッフの構成や各々役割を学習し、アスレティックトレーナーが活動しやすい環境を整備するために、コーチやスポーツドクター、その他の医科学スタッフといかに連携し協力していくべきかを理解する。	2前	30	2	○		

○	アスリハ論・実習	スポーツ動作の観察や身体の機能評価から導かれた問題点を改善できる能力を養う。特に競技特性を考慮したスキルエクササイズや競技復帰直前のフィールドエクササイズについて学習する。	2 ・ 3 通	240	16	○	△
○	機能評価論・実習	筋力や関節可動域、関節安定性などの身体機能を評価するために必要な検査・測定方法を学習する。	2 通	60	4	○	△
○	コンディショニング論・実習	コンディショニングの概念を理解し、競技者がより良いパフォーマンスを発揮するための各要素を評価し向上させるための方法を学習する。	2 ・ 3 通	120	8	○	△
○	スポーツ心理学Ⅱ	スポーツ技能の学習や指導、スポーツの動機づけなど、アスレティックトレーナーが運動指導をする上で知っておくべき心理学的知識について専門的に学習する。	2 後	30	2	○	
○	スポーツ生理学Ⅱ	筋収縮形態やエネルギー供給機構をはじめ、アスレティックトレーナーが運動指導をする上で知っておくべき生理学的知識について学習する。	2 前	30	2	○	
○	スポーツ内科学Ⅱ	スポーツ現場で起こる内臓疾患や病的現象など、競技者にみられる内科疾患の病態や症状、対応策や処置、予防処置について学習する。	2 通	30	2	○	
○	テーピング実習Ⅱ	スポーツにより発生する外傷・障害特性や競技特性を理解し、様々な病態や競技にあわせて適切なテーピング方法を選択でき、より効果的なテーピングを施せる能力を養う。	2 ・ 3 通	90	6	△	○
○	バイオメカニクス	身体の構造を理解したうえで運動を力学的な観点から捉え、走・投・跳などの各種動作のバイオメカニクスを学習する。	2 後	30	2	○	
○	日赤救急法	救急員養成講習では、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得し、資格取得をめざす	2 前	30	2	○	△
○	トレーナー実習	トレーナーの業務内容、心構えなど、トレーナーの仕事を見学し、トレーナー実習を通じて学ぶ。	3 通	120	8	○	△

○	運動療法論・実習	生活習慣病や加齢に伴う疾患などについての知識を整理し、適切な運動療法を実施するための運動プログラム作成方法や実際の指導に関わる能力について学習する。	2・3通	180	12	○	△
○	健康学概論	健康の概念や健康づくりに関する歴史、国の施策などを学び、健康増進や疾病予防、介護予防に携わるうえで必要な知識を理解する。	2前	30	2	○	
○	健康調査・体力測定	人の現在の健康状態、生活習慣などについての指標を的確に把握し、メディカルチェックを実施する上で必要な知識の習得をめざす。また、体力測定の内容を理解し、様々な体力因子の測定法や目的に応じた評価法に関する正しい知識を身につける。	2通	60	4	○	
○	健康運動実習	運動、スポーツの特徴を理解し、生涯にわたって運動、スポーツを取り入れた生活がいかに重要かを理解する。陸上運動、水中運動、リラクゼーションと実践していく。	2・3通	90	6	○	△
○	メディカルチェック補助実習	安全で効果的な運動療法を実施するためには、対象者の運動機能を正しく把握する力が必要となるため、運動の有益性やリスクについて理解し、健康増進、疾病予防の観点から運動指導を行うための知識を習得する。	2前	30	2	○	
○	カウンセリング法	カウンセリングの理論と実際に関して講義を行い、対人援助場面で適切な人との関わりについての知識を習得する。	2・3通	90	6	○	
○	スポーツ科学	運動・スポーツの生理学的・バイオメカニクスの・心理学的基礎および健康の保持・増進という視点から運動・スポーツ理論について学ぶ。	2通	60	4	○	
○	身体のはたらき	健康とは何であるかを理解するためには、疾病・疾患の理解は不可欠である。疾病・疾患を患うと身体には様々な変調が現れる。これらの症状を理解するために必要となる、正常な身体のはたらきについて、臓器を中心に知識を習得する。	2通	60	4	○	

○	医学概論	人々の健康に関わるトレーナーとして、対象者に最適な指導を行なうためには、様々な疾病、疾患について理解しておくこと重要である。内科的疾患を中心とした疾病・疾患の原因、病態、リスクなどの知識の習得を行なう。	3 通	60	2	○		
○	社会福祉概論	貧困者、児童、母子、高齢者、障害者などに対して援護・育成を図ろうとする制度が社会福祉である。そのうちすべての社会人が受給することのできる社会保険や生活保護について詳しく学ぶ。	2 後	30	2	○		
○	福祉環境論	超高齢化社会を支える世代として、現実を把握し、よりより暮らしにしていくなめにはどうしたら良いかどのような方法があるかを知る。	3 前	30	2	○		
○	新日本舞踊	スポーツとしての技能や表現力を身につけるとともに、その基礎的な素養として着物の着付け、立居振舞、礼儀作法について学習し、日本の伝統的文化、教養を身につけ運動指導者としての素養を高める。	2 前	30	2	○		△
○	介護予防論・トレーニング	介護予防運動指導員の資格取得を念頭に、介護予防の概要、評価方法、失禁、低栄養、口腔機能の低下、認知症の予防について学ぶ。転倒、失禁予防のトレーニングを中心に機能向上の基礎知識、技術を習得する。	2 ・ 3 通	60	4	○		△
○	専門ゼミ・演習	専門分野に関するテーマを設定し、文献検索、抄読、実験、発表の方法など一連の研究活動を経験することで、現場で活躍し続ける実践力を養う。	2 ・ 3 通	240	16	○		
○	パーソナルトレーニング実践	目的に応じた様々なトレーニングを実践していく中でその効果を実感し、計画したトレーニング内容を検証し、効果的なトレーニング手法や動作を理解し、適切なトレーニングの指導や援助ができる人材となるために必要な能力の向上を目指す。	2 ・ 通	60	4	○		△
○	セルフマネジメント	日本経済を取り巻く環境、企業マネジメントなど社会人になってから必要な事を先に学び就職してからのイメージができるようにする。また、社会人として信頼を得るための具体的な方法、人間関係や人材育成などの方法を学ぶ。	2 ・ 前	30	2	○		

○		生涯スポーツ 実技	子どもから高齢者が一緒に楽しめるニュー スポーツの企画運営方法を学ぶ。フィ ットネス、スポーツ等の活動を生涯スポ ーツの観点からの指導方法を実践するた めの様々なアプローチの方法を理解する	2 通	30	2	○		△
○		健康運動実践 対策	健康運動実践指導者の資格取得をねらい とし、医学的知識、生理学的知識など科 学的根拠に基づき、安全で効果的な運動 指導をするための知識を習得する。	3 後	30	2	○		
○		健康運動対策 実技	健康運動実践指導者の資格取得をねらい とし、実技試験科目であるエアロビック 運動について、安全かつ効果的に指導を 行う知識を身につけ、指導者と指導され る側となり実践を行う。	3 後	30	2	△	○	
○		キャンプイン ストラクター	キャンプの基礎から歴史、安全に関する こと、キャンプ生活に関する基礎から野 外生活種目などの技術を学習し、キャン プインストラクター資格取得をめざす。	1 前	30	2	○		△
○		レクリエーシ ョンインスト ラクター	レクリエーションという考え方がどのよ うな役割を果たすのか学習し、年齢、性 別に応じたプログラム支援方法、集会で の企画、運営方法を学習していく。	1 通	30	4	○		△
○		障害者スポー ツ論	障害者の障害内容に基づいた活動上の健 康や安全管理を念頭に置き、スポーツの 喜びや楽しさを理解できる指導者を育成 し、障害者初級スポーツ指導員の資格取 得をめざす。	2 後	30	2	○		
	○	資格対策演習	目標資格取得に向けた対策を行なう。	3 通	60	4	○		
○		コンピュータ	ウインドウズの基本ソフトである、「ワ ード」「エクセル」「パワーポイント」 の操作方法を学び、ビジネス文書や資料 の作成、データ作成や管理の技術を習得 する。	1 ・ 2 ・ 3 通	180	12	△	○	
○		ビジネスマナ ー・ホスピタリ ティマインド	周囲や相手に対する承認・理解、受容・ 共感などを踏まえた対人サービスを実践 するにあたっての基本的行動様式を身に つけ、社会人としての言葉遣いや電話応 対、身だしなみ等の基本的なビジネスマ ナーを習得する。	1 ・ 3 通	90	6	○		
○		時事一般	就職活動に必要な一般常識試験（国語・ 数理・英語・社会・時事問題）、面接の 受け方や履歴書の書き方などについて学 習する。	2 後 ・ 3 前	60	4	○		

○			就職対策・HR	カリキュラムについて、学習方法について、学校生活に必要な情報提供やアドバイスを実施する。就職活動に関するアドバイス、履歴書添削、模擬面接などを実施する。	1 ・ 2 ・ 3 通	120	6	○		
○			ベーシックプログラム	チームづくり、協働でミッションに取り組むことによって、「自己管理」「時間管理」「自立」「チームワーク」「工程管理」など様々な状況のもので適用できる高次のスキルについて学ぶ	1 前	30	2	○		
合計				60 科目		2640 単位時間 (単位)				